

(社)地盤工学会 室内試験規格・基準委員会
平成18年度 第1回 幹事会
議事録

日 時：平成18年9月1日(金)9:55~12:35

場 所：(社)地盤工学会会議室(3F)

出席者：後藤委員長，川崎委員兼幹事(議事録担当)，豊田委員兼幹事，桑野前委員兼幹事
(以上4名)

配布資料：資料-1：「土質試験の方法と解説」正誤表
資料-2：「土質試験の方法と解説」チェック表
資料-3：JIS見直しシート
資料-4：WG2化学特性WGの活動状況概要
資料-5：岩盤不連続面の室内せん断試験方法基準検討委員会報告書
資料-6：WG7岩盤不連続面の室内せん断試験方法基準化WG委員構成(案)
資料-7：平成18~19年度WG7活動計画(案)
資料-8：岩盤不連続面の室内せん断試験方法(案)Ver.0
資料-9：室内試験規格・基準委員会平成18年度委員会(岩関係)構成(案)
資料-10：「土質試験の方法と解説」編集作業工程
資料-11：「土質試験の方法と解説」編集工程
資料-12：室内試験規格・基準委員会HP案
資料-13：突固めによる土の締固め試験のランマーに関するお問合せについて(回答)
資料-14：平面ひずみ圧縮試験に関するお問合せについて(回答)
資料-15：一軸圧縮試験における応力補正に関するお問合せについて(回答)
資料-16：岩石の密度・含水比試験に関するご質問について(回答)
資料-17：102PのNPの扱いに関するお問合せについて(回答)
資料-18：P.269の土質区分基準に関するお問合せについて(回答)
資料-19：土木研究センター編：建設発生土利用技術マニュアル(第2版)，pp.24-25

議 事：

1. 桑野前委員兼幹事による引継ぎ(資料-1~3)

桑野前委員兼幹事より，赤本に関する過去の修正履歴および修正の未対応箇所などについて説明がなされた(資料-1~2)。また，JIS規格の内容改訂に関する確認および検討状況について報告がなされた(資料-3)。それらの主な内容は，以下に記載のとおりである。

- ・「地盤工学会に寄せられた会員からの質問や意見を4~5年前まで遡って整理し，まとめておいて欲しい」と調査・基準課には依頼している。よって，過去のQ&Aを資料-2に加筆する必要がある。
- ・資料-1の第1版~第3版までの正誤表でオレンジ色の部分はHPで掲載されているが，冊子としては訂正が反映されていない。よって，第4版以降の正誤表でオレンジ色の部分については次回の改定時に訂正する必要がある。
- ・「第4版」とは「第4回目の増刷」の意味であり，現在の第5版までは軽微な修正が反映さ

れている。

- ・第4版以降に関しては、正誤表（資料-1）とチェック表（資料-2）の対応について確認できている。しかし、それ以前については確認できていない。
- ・第6版の印刷時期を早急に事務局まで確認すると同時に、オレンジ色の部分を中心にWG活動による修正作業を進める必要がある。
- ・JIS規格とJGS基準の不整合の問題、特にJIS規格の方に誤った表記が見られる場合があり、JISに対して修正を申し入れる必要がある。
- ・資料-3の「確認」の表現は非常に分かり難いが、回答する際の選択肢の中で「確認」以外の適切な選択がないのが現状である。
- ・JIS A 1216のように、本文中において引用するJIS規格の「章」まで記載されている場合には、JIS規格の改定に伴って改訂の前後における引用の不整合が生じている場合があり、見直しの際には注意が必要である（資料-3）。
- ・作業が大幅に遅れている資料-3に関する対応については、当該JIS規格を桑野前委員兼幹事よりCD-ROMに入れて後藤委員長および川崎、豊田の両委員兼幹事まで送付してもらい（送付作業は地盤工学会事務局に依頼可）、9月中を目途に記載内容を確認する。そして、次々回の基準部会（10月中旬～下旬に開催予定）において上申する。

2. 平成18年度の各グループの活動状況（資料-4～8）

最初に、豊田幹事より、土関係のWGで活動しているWG4の活動状況について報告がなされた（資料-4）。その主な内容は、平成18年度地盤工学研究発表会においてDS「地盤材料の化学試験はいかにあるべきか」を実施したこと、また、次回は平成18年9月29日14:00～（JGS会館）の開催予定であること、などであった。

次に、岩担当の川崎幹事より、WG7の活動状況に関する報告があり、その中で平成18年度第1回会合の配布資料の中に基準素案 Ver.0が既に提出されていること、などが紹介された（資料-5～8）。また、WG7の平成18年度予算は、WG2と同額の40万円とすることが再度確認された。説明後の審議の結果、資料-5については軽微な修正（委員会メンバーの所属機関の加筆、1箇所の誤字の訂正）を施してWG7に確認してもらった後（川崎委員兼幹事が対応）、次回（平成18年9月11日開催予定）の基準部会の席上において修正された報告書（最終版）を回覧することになった（豊田委員兼幹事が対応）。また、最終版の報告書をHPで公開することになった（川崎委員兼幹事がWG7に最終確認を実施）。さらに、資料-6に関しては、「会務」の部分における表記を次のように修正することにした。委員長 グループリーダー、副委員長 グループサブリーダー、委員兼幹事 グループ幹事、委員 メンバー。ただし、この名称は基準部全体に関係するので、次回の基準部会で確認する（特にグループサブリーダーについては前回の基準部会では検討していない）。

一方、WG6の代表として室内試験規格・基準委員会に派遣される委員については、同WGの木幡グループリーダーに問い合わせることになった（後藤委員長が対応）。

3. 平成18年度の委員会構成の検討（資料-9）

川崎委員兼幹事より、資料-9を用いて岩関係の委員構成案に関する報告がなされた。その主な内容は、WG5およびWG6については岩関係が該当しないこと、またWG1～WG4およびWG7の各WGに対応する第1候補者の全員から委員就任の内諾をもらっていること、などであった。

一方、土関係の委員に関しては、本日の幹事会が終了後に後藤委員長と豊田委員兼幹事で候補者に関する打合せを行い、早急に内諾をもらった上で次回の基準部会において室内試験規格・基準委員会の委員構成（案）として報告することになった。

4. 赤本改訂に向けたスケジュールの検討（資料-10～11）

後藤委員長より、前回の赤本改訂に関する編集作業工程について説明がなされた（資料-10～11）。その後の議論の結果、次回の赤本改訂に向けて以下のことが確認された。

- ・赤本は2009年度末までに校正・印刷・製本を終え、2010年度初頭より販売を開始する。
- ・改定編集委員会は、室内試験規格・基準委員会と同じメンバーで構成する。
- ・書式に関しては、JGS基準からJIS規格の書式に変更する。
- ・できるだけ、JGS基準をJIS規格に格上げすることを原則とする。
- ・次の改訂版では土と岩を分けず、一緒にまとめた室内試験方法の冊子とする。
- ・赤本の体裁については室内試験規格・基準委員会で議論し、原案を基準部会に上申する。

5. 効率的なHPの更新方法の検討（資料-12）

豊田委員兼幹事より、資料-12を用いて室内試験規格・基準委員会のHP原案について説明がなされ、以下のことが了承された。

- ・提出されたHP原案を基本として公開する（資料-12）。
- ・各WGは、WG活動に関する情報を適時HPにアップロードするよう心掛ける。全ての関係する委員会において議事録は原則的にHPに公開する。これから赤本の改訂作業が始まるので、委員会活動状況の会員・一般への公開、および情報の蓄積が主な目的である。
- ・HPへのアップロードは、次の手順を踏むものとする。各WG 委員長および両委員兼幹事
地盤工学会事務局

6. 室内試験規格・基準委員会内の連絡方法、委員会運営等の検討（資料なし）

基準部会の構成メンバーではない後藤委員長より、基準部会の情報を送付して欲しい旨の要請があった。このため、基準部会のメーリングリストに追加してもらうように依頼することになった（豊田委員兼幹事が対応）。

7. 室内試験方法に寄せられた各種質問に対する回答の報告（資料-13～19）

後藤委員長および川崎委員兼幹事より、室内試験方法に寄せられた質問の内容および質問に対する回答について説明がなされた（資料-13～19）。なお、資料-19に関しては、コピーを文書で送付するか、あるいはPDFファイルに変換して電子メールで質問者に送付することになった。

8. その他

特になし

9. 次回

平成18年度の第1回室内試験規格・基準委員会は、10月中旬に地盤工学会会議室で開催する。委員会構成員の開催日時に関する調整は後日、両幹事が行う。次回委員会における主な議題は、赤本改訂に向けた組織および編集作業工程などである。

以上